

教育ボランティア報告会

2011年12月14日(水)に山梨大学教育人間科学部(武田キャンパス)のN号館の二つの教室で、教育ボランティア報告会を開きました。この報告会は、教育ボランティアの活動経験のある学生が集まって、活動の中での学びを共有したり、悩みを相談したりすることを目的に催されました。学生達は、各々の経験を語り、またお互いの話に真剣に耳を傾けていました。

【永井正成】

報告会冒頭で、教育ボランティアの活動経験のある学生4名に体験発表をしていただきました。体験発表者の別保大志さん(技術教育3年)は「いろいろな学年・学級を経験できた。教育実習とは、違う学びが

専修や学年の垣根越えて学び共有

“三者三様”の学び

あった」とお話ししてくれました。理科教育3年の菅沼美奈さんは「教育経験を生活の中に入れたかった。現場の児童の学習意欲が凄かった」と経験を語ってくれました。「教育ボランティアは現場を知れる貴重な経験。分からないことは、率先して聞くことが大切」と、佐野稚那さん(社会科教育4年)は語りました。また、家政教育2年の小林真梨子さんは「食育等を考える貴重な体験が出来た。人と人との繋がりを充分に持てる活動も出来た」と成果を発表してくれました。体験発表の次に「教育ボランティアで学んだこと」というテーマでグループ毎に話し合いをしました。多くの学生が口



写真④=N号館に集まった大勢の学生。専修や学年が異なる学生同士でグループをつくり話し合うということで適度な緊張感が生まれました。



を揃えて言ったことの中には「教育ボランティアは子どもと

体験発表者の皆さん

発表ありがとうございました



写真⑤=報告会冒頭のボランティア体験発表で発表していただいた4名の学生。左から別保大志さん(技術教育専修3年次生)・菅沼美奈さん(理科教育専修3年次生)・佐野稚那さん(社会科教育専修4年次生)・小林真梨子さん(家政教育専修2年次生)。

関わられる貴重な機会を提供している」だとか、「教師として教える場に止まらず多くを学べる場である」という意見がありました。また、「教師の仕事や、教育現場を経験することができた」だとか、「子どもとのコミュニケーションや教師同士の協力の大切さを再確認できた」などという学びがあったというお話が多く聴かれました。一人ひとりが違う場所で活動しているだけあって、その学びも三者三様です。自分で現場に赴き経験することと同じくらいに、今回他者の経験や学びを、聴くことで様々な学びがあったと思います。

テーマ「教育ボランティアで学んだこと」



写真⑥=グループ協議の様子。時間が経つにつれて話し合いは盛り上がり上がっていききました。

写真⑦=グループでの話し合いの内容の、まとめを発表する学生。一人ひとり異なる経験と学びがありました。⑦笹本撮影

